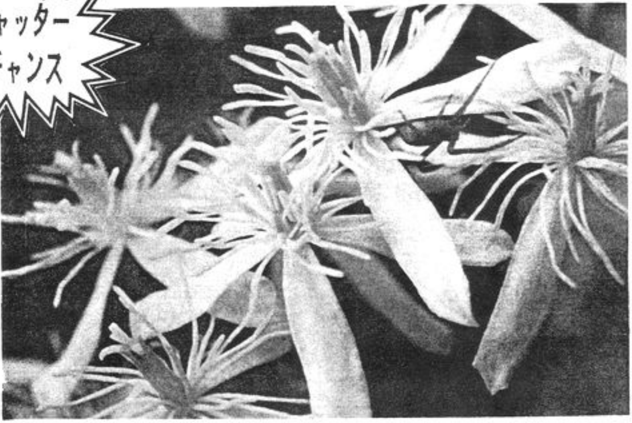
市立

1990年（平成２年）８月１日発行

市川自然博物館

8-9月号 （通巻第７号） だより

シャッターチャンス



〜センニンソウ〜

暑い夏のあいだ、林や草むらの植物は、降り注ぐ日差しにじっと息をひそめています。そして、お盆が過ぎツクツクホウシの声が聞かれる頃から、タデのなかまや秋の七草が、色とりどりの花を咲かせ始めます。

センニンソウは、雑木林のまわりや河原の土手などの明るい場所に多いつる草です。直径３センチくらいの白い花が、満開のときには流れるように咲き乱れ、山野ではよく目につきます。キンポウゲ科に属し、春、庭で大輪の花を咲かせるテッセンやクレマチスと同じ仲間です。

特集 雑木林で

夏になると、雑木林はたくさんの昆虫たちでにぎわいます。木の幹の中にいるものもいれば、葉を食べていたり、地面を歩きまわっているものもいます。また、昼間ばかりでなく、夜にしか活動しない昆虫もいます。これから、雑木林で昆虫観察をするときのいくつかのポイントを紹介しましょう。

①樹液のでている木をさがそう！

昆虫の観察にもっとも適した場所は、あまずっぱい樹液が木の幹から出ている所です。このような樹液を出す木は、クヌギやカシ、コナラといったドングリのなる木です。

樹液を求めて、いろいろな昆虫がきます。

・こんな虫がみられるよ

昼だけでなく夜も観察してみると、じつにたくさんの種類の昆虫たちを見ることができます。昼間はルリタテハなどのタテハチョウのなかま、ヒカゲチョウなどのジャノメチョウのなかまやカナブン、ケシキスイ、オオキスイ、スズメバチなどが樹液を求めて集まってきます。夜になってあたりが暗くなると、ガのなかまやキマワリ、カミキリムシ、夏の雑木林の昆虫の代表であるカブトムシ、クワガタムシが集まってきます。

夜の観察は、一人では危険です。必ず大人と一緒にいきましょう。また、昼間に下見をすること、かいちゅうでんとうを持っていくことを忘れずに！

・こんなことを観察してみよう！

樹液の場所をめぐって、同じ種類の昆虫どうしや違う種類の昆虫がけんかをしていることがあります。そんなとき、どの昆虫が一番強いのか、またどのような武器を使って場所とりをするのか観察して虫の番付表を作ってみましょう。また、どの虫が何時ころに一番多く見られるかもあわせてみてみましょう。

虫をみよう！

②虫が食べた葉をさがそう！

虫の食べあとのある葉や筒状に巻いている葉をさがしてみましょう。必ずどこかに虫がひそんでいるはずです。

・こんな虫がみられるよ

虫の食べあとのある葉を探すと、チョウやガの幼虫である、いもむしやけむし、そしてゾウムシ、ハムシ、オトシブミといった小さな甲虫のなかまやタマムシのなかまなどが見つかります。巻いてある葉を広げると、いもむしやけむし、クモなどが、巣を作ってその中で生活しているのを観察できます。

・こんなことを観察してみよう！

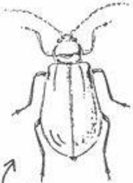
虫の食べあとをよくみてみましょう。葉の表面だけに食べあとがあるか、全体的についているのか調べてみましょう。また、巣を観察して、巣の形や大きさが虫の種類によってどのように違うかよくみてみましょう。

③その他の観察ポイント

朽木の中やそのまわり、雑木林の近くの電燈、キノコやコケの生えている木の幹などまだまだたくさんあります。

さあ、みなさんも夏の雑木林にでかけて、いろいろな虫を観察してみましょう。

注意：虫のなかには、毒を持っていたり、かみついたりするものがいます。むやみにさわったり、追い払ったりしないようにしてください。



（平凡社・イラストアニマルより）

市川・自然探検

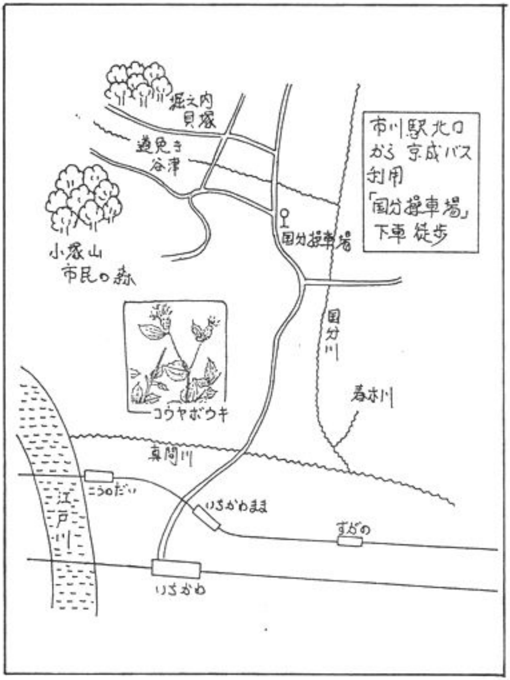
～小塚山市民の森～

市川の自然を見る場合、つねに川と対応させて見ていくと、全体像がつかみやすいようです。南部なら江戸川放水路と旧江戸川、北部なら大柏川と国分川です。

小塚山は、市の北東部、国分川流域にある雑木林です。国分川がある谷から枝分かれした谷のひとつ『道免き谷津』に面した林で、堀之内貝塚と向かい合った位置にあります。

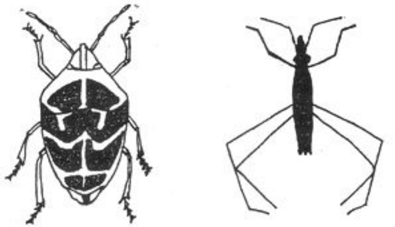
小塚山は市内に残る雑木林としては、珍しくアカマツが多い林です。イヌシデやコナラ、クヌギ、エゴノキなどの雑木林におなじみの木のほか、ヤマハンノキも見られます。ひとところに様々な木があるので、木を学ぶにはいい所です。

秋には、タデのなかまや野菊の類、コウヤボウキなどの野草が観察でき、シラカシやクヌギ、コナラの木の下ではどんぐり拾いもできます。



市川のこん虫 カメムシ

カメムシというと、みなさんはまっさきに「つかむと臭いいやなにおいがする」と思いうかべるでしょう。このいやなにおいは、カメムシの体の腹側にある臭腺（しゅうせん）というところから出てきます。そして敵にあうと、このにおいで身を守ります。市川市内では、クズなどのマメ科植物の茎によくついている「マルカメムシ」、ススキなどのイネ科植物にいる「ウズラカメムシ」、緑色の体に赤いしま模様の入った美しい「アカスジキンカメムシ」、市の木であるクロマツの葉を食べるマツカレハというガの幼虫の天敵として役立つ「ヤニサシガメ」、せなかにある黄色いハート型の模様がよく目立つ「エサキモンキツノカメムシ」といった陸生カメムシが、また水辺には「アメンボ」や「ミズカマミリ」、「コミズムシ」といった水生カメムシがよく見られます。



＜アカスジキンカメムシ＞　＜アメンボ＞

むかしの市川　～その５～

シャコとりの話

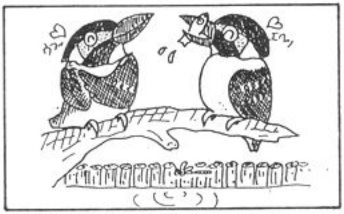
昔、市川の海岸には干潟がひろがっていました。土曜日の午後がちょうど干潮のときは、小学生や中学生はバケツをぶら下げて、よくこの干潟に行ったものです。やや大きめの穴で、中の水が静かに渦を巻くように動いていたら、シャコがいる可能性があります。そこで子ども達は、まわりを注意して見ながら、片手のゲンコツをピストンのように上下に動かして、その穴に押し込みます。すると、必ず１～２ｍ離れた所のもう一つの穴から水があふれ出し、うまくいくと、そこからシャコが逃げ出してきます。それをすかさずつかまえるのです。たくさんとれると家へ持ち帰りおなべで煮て、出し汁を取りました。この出し汁を使った味噌汁はほっぺたが落ちそうにおいしかったのです。

（博物館指導員　　玉置善正　記）

大町歳時記

セミの声のにぎやかな季節になりました。観察路を行くと、夏の強い日差しが容赦なくふりそそぎます。そんなとき、「チーッ」と鳴きながら、一直線に目の前を通り過ぎてゆく一羽のカワセミに出会うことがあります。そのコバルト・ブルーの体は、水辺の宝石といわれるにふさわしく、光り輝いているのです。

水の豊富な観察園には、大小6つの池があり、カワセミの大切な餌場になっています。池のまわりの杭や水面にかかる枝などは、カワセミのお気に入りの場所で、そこから獲物の小魚をねらうのです。夏は子育ての季節ですから、とった魚を大急ぎで巣まで運んでいるのかもしれません。昨年は、4羽の幼鳥を園内の池で見かけました。今年は何羽育つか、そーっと見守ってあげてください。



行徳野鳥観察舎だより

ウミネコ

文と絵・蓮尾純子

ウミネコの姿が目立ちはじめた。巣立ったサギの若鳥をまじえて、干潟が夏らしいにぎわいを見せている。鳥影がほとんどない閑散期を脱して、解説者としてはほっとひと息。

夏にカモメを見かけたら、たいていはウミネコと思ってよい。ミャーオと鳴く声は本当に猫そっくりで、いつまでも印象に残る。

ウミネコ

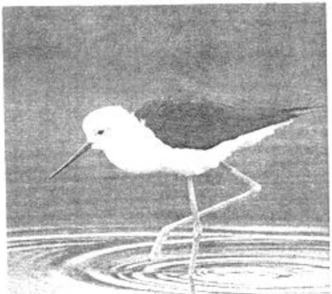
崖や小島などに大きなコロニー（集団繁殖地）を作るが、千葉県では繁殖しないので、6月に見られたウミネコは1〜2歳の若鳥ばかり。成鳥はいなかった。子育ての時期もそろそろ一段落らしく、純白の頭の親鳥がまじりはじめ、7月16日には今年生まれの黒褐色の若鳥が早々と1羽到着した。出身は宮城か青森か。 500キロの長旅、ご苦労さま。

企画展
大町自然観察園の自然

開催中！

博物館の隣にある観察園の自然を、春夏秋冬さまざまな話題で紹介した企画展。標本や写真ばかりでなく、生きたカエルを見たり、どんぐりゴマなどのおもちゃで遊ぶコーナーも人気です。９月24日までの期間中、観察園での解説も毎日行っています。

絵はがきがさらに充実！



市川で四季折々に見られる生き物を、美しい写真を使って紹介した、絵はがき「市川の自然」シリーズ。

好評のクサボケ、ツバメ、トビハゼ、アシハラガニ、オオケタデの５種類に、新たにイチリンソウ、ナツアカネ、ヒヨドリジョウゴ、セイタカシギ、オナガガモの５種類が加わりました。

季節にあわせた絵はがきで、便りをしたためてはいかがでしょう。ちょっとしたプレゼントや来館の記念にも最適です。１枚50円で発売中です。

★ ★

行事あんない

「第32回名前を調べる会」

1．日　時　・　場　所

8月24日（金）自然博物館

8月25日（土）市民会館

8月26日（日）行徳公民館

・いずれも午前10時～午後4時

2．内　容

みなさんが夏休みに作った標本に、専門の先生が正しい名前を調べて付けます。

★どなたでもご自由に参加できます。

申し込み不用。当日会場に直接標本を持ってきてください。先着順に受け付けます。

「9月の自然観察会」

1．日　時　　9月9日（日）

午後9:30～11:30

2．場　所　　小塚山市民の森

～堀之内貝塚公園

3．内　容　　夏の植物

4．申込受付期間　8/17～9/4

往復ハガキに、参加者全員の住所氏名、年齢、電話番号を明記の上、当博物館までお申し込みください。なお、先着20名様にて締め切らせていただきます

次号は10月1日発行

さる7月1日、江戸川放水路の干潟で、観察会を行いました。みなさん、あさりを見つけたり、トビハゼを望遠鏡でのぞいたり、チゴガニのバンザイを見たりでとても楽しい観察会でした。中には、体中泥だらけになりながら、カニを追いかけている方もいらっしゃいました。

おしらせ

●出版物のご紹介

既刊の「市川の自然」「市川の植物」に加え、企画展資料「大町自然観察園」を販売しています。郵送ご希望の方は、現金書留に、代金（ 700円）及び送料（ 210円分の郵便切手）同封の上、当博物館宛にお送りください。

●標本をつくろう！

情報コーナーでは、植物と昆虫の標本の作り方を、実物を使って、わかりやすく解説しています。どうぞご覧ください。

●かんさつノートをお配りしています

企画展開催中、観察園の見どころを紹介した、『かんさつノート』を展示室出口でお配りしています。

市立市川自然博物館だより

第2巻　5号（通巻第7号）

発行日／　平成2年8月1日

編集・発行／　市立市川自然博物館

〒272 千葉県市川市大町 284番地

☎　0473（39）0477